

令和3年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和3年5月27日(木)

4 調査の内容

| | | |
|---------------------|--|---|
| (国語、算数) 教科に関する調査 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校調査は、国語及び算数とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。 | |
| | 【小学校 国語・算数 各45分】 | |
| 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 | 児童生徒に対する調査 | 学校に対する調査 |
| | 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】 | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など |

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



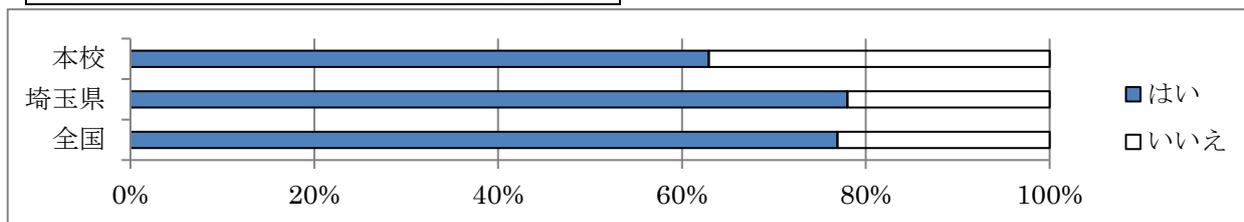
| 国語 | | | | |
|-----------------|-----|-------------|------------|-------------|
| 学習指導要領の領域等 | 設問数 | 本校平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 話すこと・聞くこと | 3 | 74.1 | 77.5 | 77.8 |
| 書くこと | 2 | 52.2 | 61.6 | 60.7 |
| 読むこと | 3 | 42.4 | 46.8 | 47.2 |
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 6 | 63.7 | 68.9 | 68.3 |

| 算数 | | | | |
|-----------|-----|-------------|------------|-------------|
| 学習指導要領の領域 | 設問数 | 本校平均正答率 (%) | 県平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
| 数と計算 | 4 | 55.7 | 61.2 | 63.1 |
| 図形 | 3 | 49.8 | 54.8 | 57.9 |
| 測定 | 3 | 72.6 | 72.5 | 74.8 |
| 変化と関係 | 3 | 69.5 | 75.8 | 75.9 |
| データの活用 | 5 | 74.4 | 76.2 | 76.0 |

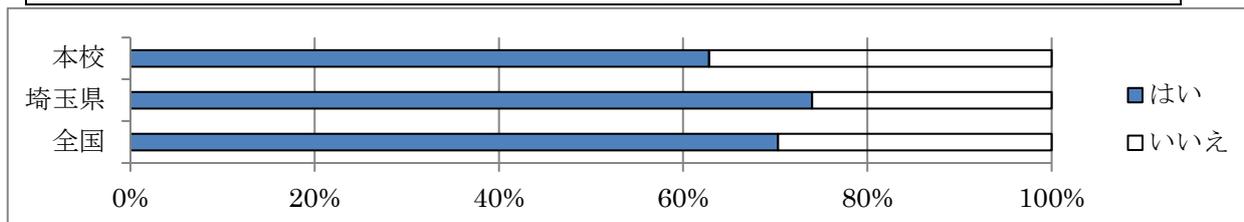
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
 いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

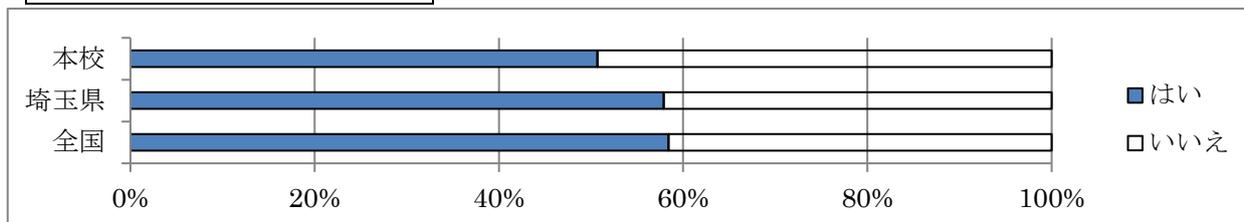
自分には良いところがあると思いますか。



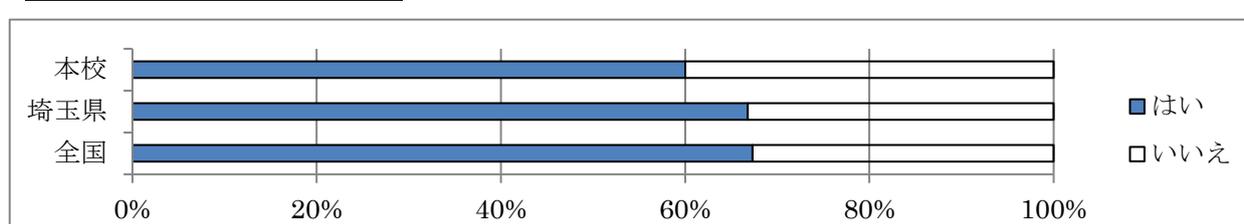
自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。



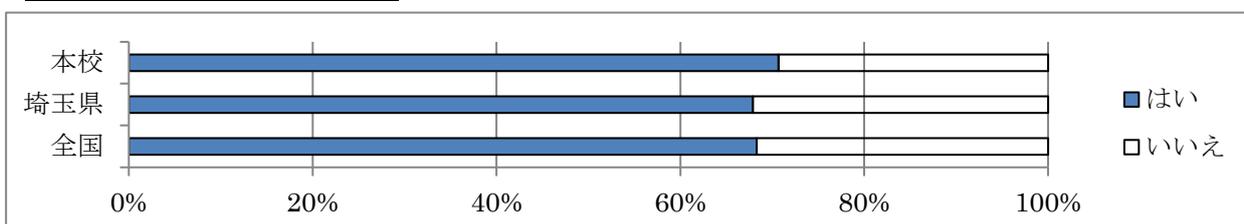
国語の勉強は好きですか。



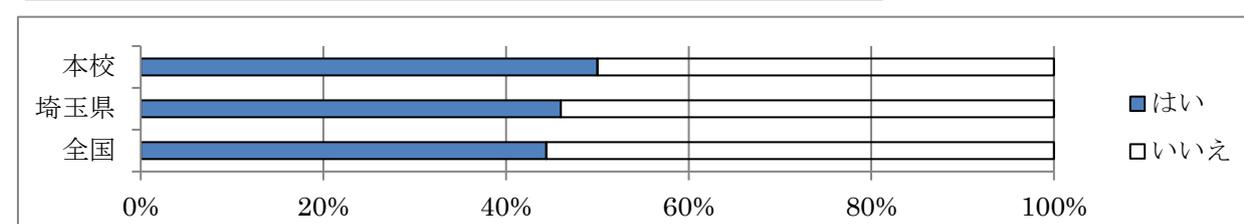
算数の勉強は好きですか。



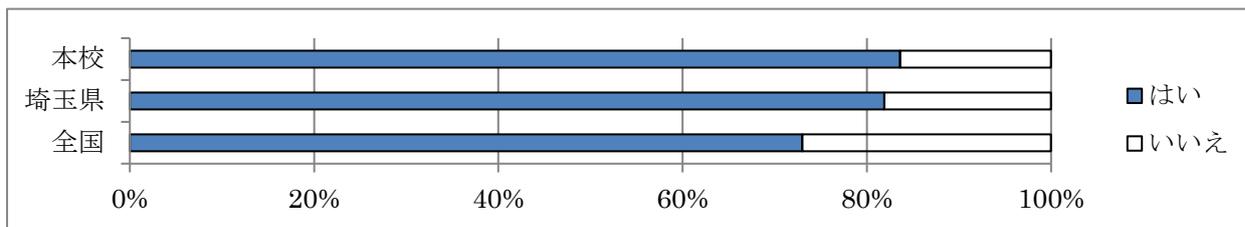
※英語の勉強は好きですか。



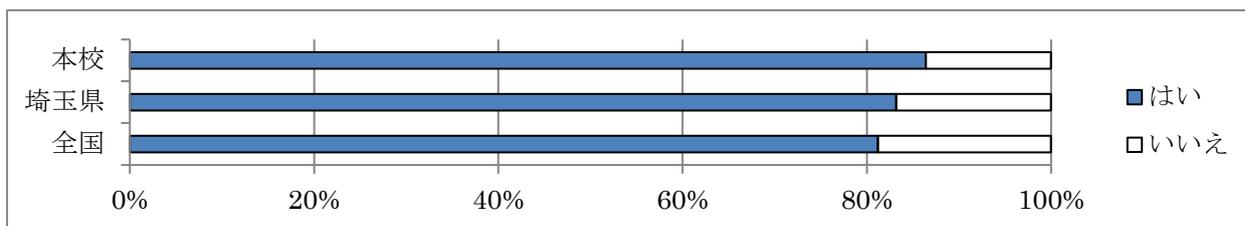
※これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。



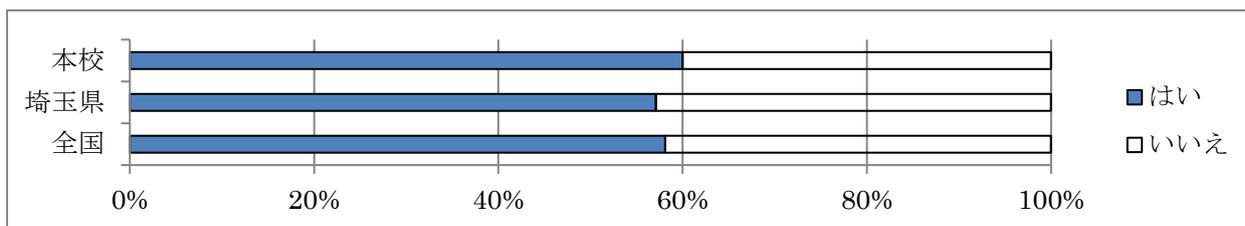
※総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



※毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



※今住んでいる地域の行事に参加していますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

本校は、どの領域においても、全国平均、県平均より正答率が低くなっています。最も差が大きい領域は、「思考力・判断力・表現力等」の「B 書くこと」で、最も差の小さい領域は、「A 話すこと・聞くこと」でした。全体として、どの領域も課題が見られます。

【問題 2二】

問題

面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択します。

○そのため、一つ一つ取り外さなければならぬホックやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。

選択肢

- 1 音楽会は九時より始まります。
- 2 雨天により試合は延期になりました。
- 3 会場へは正門よりお入りください。
- 4 今年の夏は去年の夏より暑いです。

正答 4

この設問は、思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみています。

思考に関わる語句には、「しかし」のように情報と情報との関係を表す語句、「要するに」のように情報全体の中でその情報がどのような位置付けにあるのかを示唆する語句、「考える」、「だろう」のように文の中の述部などとして現れる思考そのものに関わる語句などがあります。また、「～は～より…」、「～は～に比べて…」のように複数の情報を比べる場合や、「～が～すると…」、「～になった原因を考えてみると…」のように原因と結果の関係について述べる場合の言い方なども含まれます。これらの語句に着目して読んだり、話や文章の中で適切に使ったりすることが重要となります。

児童に普段の授業の中で、自分の意見を伝えるときにわかりやすく伝えること、友達がどんなことを伝えたいのか考えながら聞くことが身に付いてきていると推察できます。今後も情報をどのように捉え、どのように発信するか考えることができる授業を進めてまいります。

【問題 3三(2)オ】

問題

丸山さんの【文章の下書き】の中のオの文の____部について、_____部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択します。

○その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることが難しい場合もあるでしょう。

選択肢

- 1 遊び終わったら
- 2 遊具を
- 3 かたづける
- 4 むずかしい

正答 3 かたづける

この設問は、文の中における修飾と被修飾との関係をとらえることができるかどうかをみています。

意見を述べる文章を書く場合には、理由や事例を明確にしなが筋道を立てて自分の考えを述べる必要があります。そのためには、読み手が考えを理解しやすいように、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりすることが大切です。また、目的や意図に応じて、提案する文章、推薦する文章などの種類を具体化し、その特徴を踏まえて書くことも重要となります。

一つ一つの言葉がどの言葉について説明をしているのか、明確になるように文章を構成する、またそれを読み取ることに苦手があると推察できます。日記や感想文など短い文章の組み立てから練習をしたり、教科書の本文を活用し内容を適切に捉えたりすることで、修飾と被修飾との関係について学習を進めてまいります。また、国語以外の教科においても、意識的に実践していくようにいたします。

<算 数>

【領域別】

本校は、「C 測定」の領域の県平均正答率を上回っている以外は、どの領域においても、全国平均、県平均より正答率が低くなっています。「C 測定」、「D データの活用」の領域は、国、県の平均から大きな差は見られません。「A 数と計算」、「B 図形」、「C 変化と関係」の領域は、国、県の平均と比較し、やや差が大きく、課題であります。

【問題 3 (1)】

問題

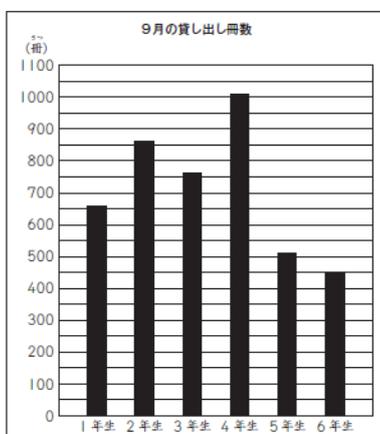
3

ひよりさんたちは、10月の図書委員会で、図書室の本の貸し出しの様子について話し合っています。



最近、5年生と6年生は、ほかの学年より本を借りていないのではないのでしょうか。

そこで、9月の貸し出し冊数を調べ、下のグラフに表しました。



(1) 本のグラフの、6年生の貸し出し冊数は何冊ですか。下のアからエまでの中から、最もふさわしいものを1つ選んでその記号を書きましょう。

- ア 401冊
- イ 405冊
- ウ 410冊
- エ 450冊

正答 4

この設問は、棒グラフから、数量を読み取ることができるかどうかを見ています。

棒グラフから、目的に応じて、各項目の数量の大きさを読み取ったり、最大値や最小値を捉えたりすることで、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるようにすることが重要となります。

今後も、授業でグラフから最大値、最小値、差、割合、集団のもつ全体的な特徴などに着目させ、データを読み取っていく活動を繰り返し実施していきます。また、他教科におけるグラフの活用場面で、深い読み取りができるよう指導を続けてまいります。

【問題 2 (1)】

問題

2

図1のような直角三角形があります。

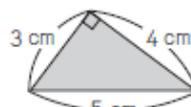


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。求める式と答えを書きましょう。

正答 $3 \times 4 \div 2 = 6$
 6 cm^2

この設問は、三角形の面積の求め方について理解しているかどうかをみています。

図形の面積の学習では、公式を導き出す過程において、図形のどこの長さに着目すると、面積を求めることができるのかを理解するようにすることが重要となります。また、公式を用いて面積を求める際には、底辺と高さの関係を理解し、必要な情報を選び出すことができるようにすることも重要となります。

まずは、面積や体積を求めるために必要な公式の理解と底辺や底面を含む必要な情報を選び出します。単純な図形の面積、体積を繰り返し求めることで、必要な情報を選び出す力を身につけさせます。そして、複雑な図形においても図形の特徴や図形の向きから必要な情報を選び出し、面積や体積を求めていきます。

また、具体物やクロームブックを活用し、図形を動かして、公式に当てはめやすい位置関係にしたり、分割したりすることで、さらなる理解を促していきます。

今後、公式の理解はもとより、図形に対する見方を育成することができるよう、授業の工夫・改善を進めてまいります。

<質問紙調査から>

| | |
|---|---|
| <p>【質問16】</p> <p>質問 友達と協力するのは楽しいと思いますか。</p> <p>回答結果 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は92.9%いました。国の平均と比べ、1.0%低い値でした。</p> <p>全国と同様の水準で、「友達と協力するのは楽しいと思っている。」児童がいます。しかし、その反対に、ごく少数の児童が楽しいと感じていません。学校生活の中で、友達と関わり合いながら、一つの目標に向けて協力していく。そして、達成感を味合わせることができるよう授業や学校行事を含め、検討を進めてまいります。</p> | <p>【質問17】</p> <p>質問 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む。)</p> <p>回答結果 「よくしている」と答えた児童は、国の平均よりも3.8%高い結果でしたが、「ときどきしている」を含めると1.9%低い結果となりました。</p> <p>「よくしている」と解答している児童の取組事例を取り上げ、学習の計画の立て方や実際に取り組んでいる学習内容などを周知していき、児童が漠然と行っていた学習を目的意識のある取組にできるように進めてまいります。また、各学期に実施している家庭学習パワーアップキャンペーンでは、学習の習慣化のために引き続きご協力ください。</p> |
| <p>【質問28】</p> <p>質問 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。</p> <p>回答結果 「役に立つと思う」と答えた児童は、国の平均よりも9.6%高い結果でしたが、「どちらかといえば、役に立つと思う」を含めると1.7%低い結果となりました。</p> <p>現在、本校ではICT機器の授業での活用を進めています。ICT機器の活用により、資料の提示、意見の交流、調べ学習など効率よく、かつ効果的に学習を進めることができます。また、教職員も研修を進め、ICT機器のさらなる活用とスキルの向上を図っております。</p> <p>今後、ICT機器が学習用具の1つとして、より児童の身近なものになるよう活用を図ってまいります。また、情報モラルや情報セキュリティの観点からも学習が進められるようにしてまいります。</p> | <p>【質46】</p> <p>質問 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。</p> <p>回答結果 「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童は、国の平均よりも0.4%高い結果でした。</p> <p>回答結果から、児童は国語の授業の大切さや重要性について理解できていると推察できます。</p> <p>国語の学習は、国語の授業のみならず全ての教科の学習における基礎となります。児童の実態を把握し、適切な指導が展開できるよう授業の工夫・改善を進めてまいります。</p> <p>また、国語の学習内容が、小学校段階から、中学校、高校とつながり、将来役に立つ学びとなるよう指導を進めてまいります。</p> |

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和3年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和3年5月12日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

| 国語 | 第4学年 | | | 第5学年 | | | 第6学年 | | |
|-----------------|------|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 言葉の特徴や使い方 | 12 | 72.6 | 71.6 | 13 | 58.5 | 58.0 | 14 | 61.3 | 61.6 |
| 情報の扱い方、我が国の言語文化 | 5 | 71.1 | 67.9 | 4 | 57.8 | 60.1 | 3 | 69.3 | 72.7 |
| 話すこと・聞くこと・書くこと | 5 | 30.6 | 29.3 | 4 | 35.5 | 40.6 | 4 | 37.7 | 43.9 |
| 読むこと | 4 | 45.7 | 41.1 | 9 | 59.0 | 60.3 | 9 | 53.0 | 55.8 |
| ※学力の伸びた児童の割合 | | | | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ | | ↑↑↑↑ | ↑↑↑↑ |

| 算数 | 第4学年 | | | 第5学年 | | | 第6学年 | | |
|--------------|------|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|---------|
| | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 | 設問数 | 本校平均正答率 | 県の平均正答率 |
| 数と計算 | 12 | 74.1 | 72.2 | 13 | 63.1 | 65.0 | 12 | 57.7 | 63.1 |
| 図形 | 6 | 63.0 | 58.3 | 6 | 62.4 | 60.4 | 7 | 59.7 | 62.3 |
| 測定 | 6 | 76.6 | 71.6 | 7 | 62.9 | 61.2 | 6 | 58.2 | 64.2 |
| データの活用 | 6 | 79.1 | 75.2 | 6 | 53.6 | 56.1 | 7 | 46.3 | 53.1 |
| ※学力の伸びた児童の割合 | | | | | ↑↑↑↑↑ | ↑↑↑↑↑ | | ↑↑↑↑↑ | ↑↑↑↑↑ |

<児童への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本校の達成率、下段:県の達成率、 は80%以上 (%)

| 内容 | 項目 | 第4学年 | 第5学年 | 第6学年 |
|-------------------|--------------------|------|------|------|
| ○けじめある生活ができる | 1 時刻を守る | | | |
| | ① 登校時刻 | 91.1 | 90.3 | 90.8 |
| | | 91.5 | 93.4 | 94.0 |
| | ② 授業の開始時刻 | 95.1 | 88.8 | 90.8 |
| | | 90.5 | 93.2 | 94.8 |
| | 2 身の回りの整理整頓をする | | | |
| | ③ 靴そろえ | 81.3 | 81.3 | 87.9 |
| | | 83.3 | 83.6 | 86.8 |
| ④ 整理整頓 | 80.5 | 82.1 | 79.5 | |
| | 78.8 | 80.2 | 78.8 | |
| ○礼儀正しく人と接することができる | 3 進んであいさつや返事をする | | | |
| | ⑤ あいさつ | 79.7 | 66.4 | 75.2 |
| | | 78.5 | 78.2 | 78.0 |
| | ⑥ 返事 | 85.4 | 85.1 | 85.8 |
| | | 87.5 | 87.9 | 86.4 |
| | 4 ていねいな言葉づかいを身に付ける | | | |
| | ⑦ ていねいな言葉づかい | 91.1 | 83.6 | 89.4 |
| | | 86.0 | 86.7 | 88.0 |
| ⑧ やさしい言葉づかい | 83.7 | 80.6 | 80.1 | |
| | 84.6 | 84.6 | 84.1 | |
| ○約束やきまりを守ることができる | 5 学習のきまりを守る | | | |
| | ⑨ 学習準備 | 87.0 | 82.8 | 83.7 |
| | | 84.1 | 85.9 | 86.6 |
| | ⑩ 話を聞き発表する | 78.0 | 79.9 | 66.7 |
| | | 76.4 | 76.0 | 72.7 |
| | 6 生活のきまりを守る | | | |
| | ⑪ 集団の場での態度 | 84.6 | 76.9 | 80.1 |
| | | 83.5 | 83.6 | 83.9 |
| ⑫ 掃除・美化活動 | 94.3 | 84.3 | 87.9 | |
| | 91.1 | 88.7 | 87.4 | |

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 指導法の工夫

- (1) 学校全体でノートの使い方を統一し、同一の流れで授業が進められるように実践しています。
- (2) クロームブックや具体物を活用し、理解が深まるように授業を進めています。
- (3) クロームブックを活用することで、児童同士の意見の交流や発表が活発に行えるように授業を進めています。
- (4) チームティーチングにより、児童にわかるよう細やかな指導を行っています。

☆2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流する時間（口頭、クロームブックなど）を確保します。
- (2) 自分の意見をまとめ、ノートやクロームブックなどに書き込む時間を確保します。

■3 学習に対する態度の育成

- (1) 学習の用意や発表の仕方など学習規律を身に付けることで集中して授業に取り組める環境を作り、授業を進めていきます。
- (2) 教員による評価だけでなく、クロームブックを活用して、児童自身による自己評価や児童同士による相互評価を行い、向上心を養います。

授業以外の取組

☆1 家庭学習の習慣化

- (1) 10分×学年は家庭学習の時間を取るように周知しています。
- (2) 児童の実態に合わせ、宿題の内容を吟味し出しています。
- (3) 家庭学習パワーアップキャンペーンを実施することで、家庭での学び方に対する理解を深めていただいています。

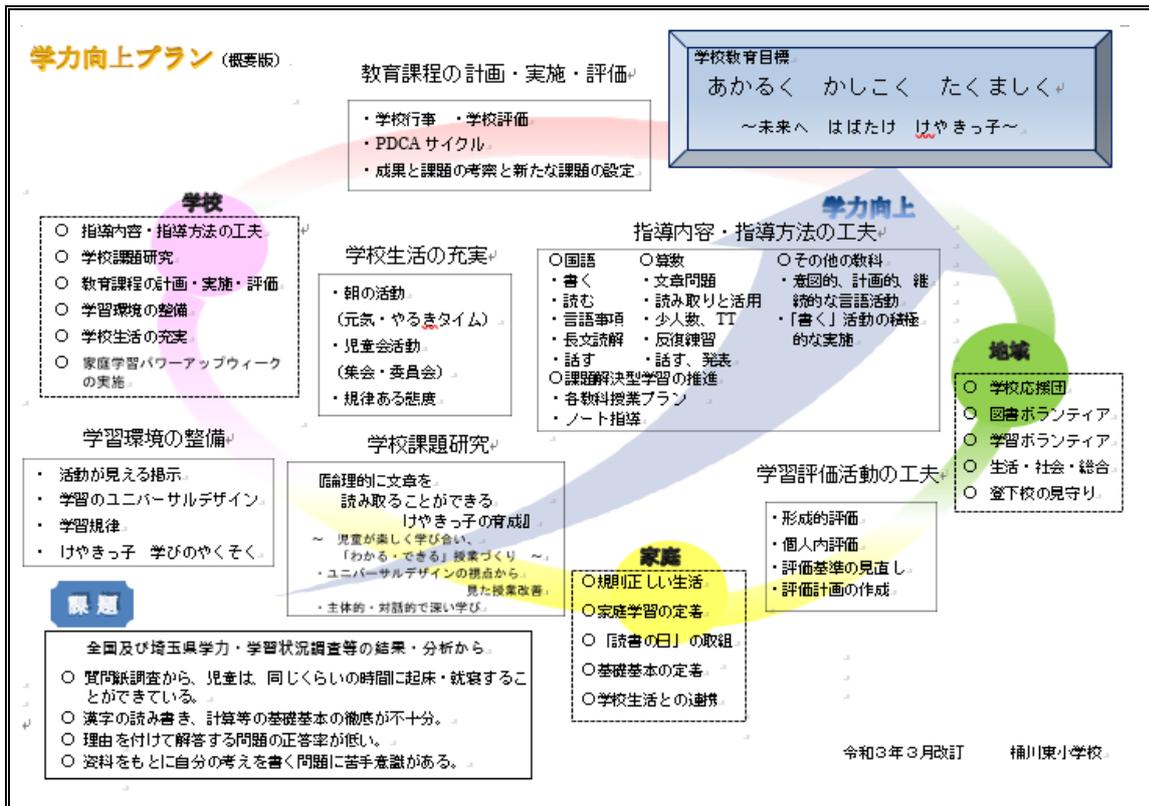
■2 学力向上プランの見直し

- (1) 授業をよりよく進められるように、全国学力学習状況調査や埼玉県学力学習状況調査の結果を分析・考察し、児童の実態を見だし、学習指導の工夫・改善を図っています。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン



保護者・地域の皆様へ

日頃より本校の教育活動に、ご理解・ご協力いただきありがとうございます。

学力は、継続的に学習活動に取り組むことで身に付きます。本校では、児童の実態を把握したうえで、授業の工夫や改善を進めております。また、学校での授業以外に、家庭での学習も大切な取組の1つとなり、学期に1回家庭学習パワーアップキャンペーンに取り組み、家庭学習の習慣化を図る取組を進めています。

また、規則正しい生活習慣を身に付け、計画的、自主的に学習する力を育成していくことが、生涯にわたる学習習慣の基礎となります。テレビ等の視聴時間やスマートフォンの使用時間等、各家庭でルールを決めていただき、健全な活用を進めてください。

児童の学力の向上を目指して様々な取組を進めてまいります。今後も引き続きご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。